

平成30年1月20日(土)第4回 「ほっと・ぼらんていあ」の報告

今回のテーマは、～辛い時こそ音楽と心療(心理学)～と題して、ゲストにオカリナアンサンブルこだま代表、みちのくエンカレッジの会代表の鳴海敏之さんをお迎えして、“楽”をキーワードに、お話しとミニミニコンサート♪を開催していただきました。

ゲストの鳴海さんは、本職がカウンセラーで、毎月第2火曜日に勉強会を開催しており、アドラー心理学についてお話ししてくれました。病気やケガをしてからの3年間は不自由で暇でしたが、徐々に回復して4～5年前から活動が増え以前よりも忙しくなったそうです。現在は家族や仲間を支えられて活動を続けており、今、津軽新報(日曜版)にコラムを連載中(3月まで)とのことでした。

オカリナアンサンブルこだまは、15年前に大鰐で開催された野外イベントに集まった仲間で結成され、毎月第3日曜日に練習して、イベントや福祉施設等に出向いていて、白神山植樹祭の山中でも演奏したことがあるそうです。

こだま単独のコンサートを、藤田庭園、五重塔のある最勝院本堂、石のむろじ展示場等で開催していますが、今年の秋も予定しているそうです。

また、お話の合間に、こだまメンバーの三浦さんと二人で、大小何種類もあるオカリナの紹介と、「KAN-NON」「万葉のこころ」「I Dreamed a Dream(夢破れて)」「Watch over my Dream(私の夢を見守ってください)」「与作」「帰り道」の6曲を、リコーダーやインティアンフルート等も使い、演奏してくださいました。最後の「帰り道」の前に、60年前の思い出として、黒石町内の子ども数人でつるんで電車で出かけ、猿賀の池でボートに乗って遊んだ帰り道、尾上から黒石に歩いて帰る途中で見た岩木山の夕やけが今でも忘れられないと語りました。情景が浮かんでくるような演奏でした。

最後の方に、音楽療法は音楽利用法で、《音楽や心理学はご利益があって楽しく楽になること大切》、そして《私たちが何を持っているか大切ですが、私たちが持っているものをどのように使うかはもっと大切です》と言った鳴海さんの言葉が心に残りました。

質疑応答の後で、参加したみなさん一人一人からお話を伺って終わりました。参加者からは、「カウンセラーのきっかけ、オカリナ演奏のきっかけは何ですか」と質問があり、鳴海さんは答えてくれました。また、「オカリナは、どこでも持ち運びできていいなと思いました。」「やさしい語りやさしい言葉使いに安らぎを感じました。」「音楽と心理学の繋がりがわかった気がします。」「オカリナの音(ね)が静かに私の胸にしみわたりました。」などの感想をいただきました。

「ほっと・ぼらんていあ」は、みなさんのボランティア活動に少しでも役立てていただけるように、これからも2か月に1回程開催しています。次回は、3月21日(水)に、読み聞かせボランティア「お話しシャワー」の方をゲストにお迎えしてお話ししていただきます。ボランティアに興味のある方に限らずに、みなさんのご参加をお待ちしています。